

岩手県下閉伊郡山田町方言における 身体感覚を表すオノマトペ

大西拓一郎

はじめに

1. 調査対象地点：岩手県下閉伊郡山田町

位置：リアス式で知られる三陸海岸の陸中海岸の中央部にあり、釜石市と宮古市のほぼ中間に位置する。それぞれから直線で約20km。重茂半島と船越半島に囲まれるようにした山田湾に臨み、山岳部が海に落ち込むように存在するため平野部は少ない。

生業：産業は漁業が中心。スルメイカ、サンマ漁業の拠点。但し、話者はもとは教員であるが、赴任地は山田町内のみ。

交通：JR山田線が通り（昭和10年開設）、交通の便は比較的良好。盛岡まで鉄道で約3時間、宮古まで約30分、釜石まで約40分。

人口：約2万5千人（山田町）

戸数：約7千世帯（山田町）

2. 調査日時：1991年9月18日

3. 話者：伊藤真佐（f） 生年月日：1913年（大正2年）10月生まれ

4. 調査者・調査場所：大西拓一郎・話者自宅

5. 調査の方法・調査時の様子：面接調査、同席者は山田町出身の配偶者。

I 全身の感覚

1-1. 快不快感

さっぱり ○（風呂に入って）サツバリシタ

1-2. 寒さ

がたがた ○（寒さで）ハガ（歯が）ガツガツトナル
（寒くて）ガタガタフルエル

<「ふるふる」とは言わない>

ぞくぞく ○（風邪をひいて）ソクソクスル

<「すーすーする」とは言わない>

1-3. 熱さ

かっか ○（酒をたくさん呑んで）ポーポートホテッテキタ

<「ばかばか」とは言わない>

(卵酒を飲んで) ホツカホカト ホテッテキタ

II 皮膚の感覚

- ひりひり ○ (日焼けして) ピリピリスル
べたべた ○ (汗をかくと背中が) ベッタベッタ
むずむず ○ (背中に何か入り) ゴロゴロト ヤッターヨーダ (嫌だなあ)
(同上) ザスザスッテ ヤッターヨーダ
ぬるぬる ○ (温泉に入って) ハダガ (肌が) ヌルヌルスル
ずきずき ○ (包丁で手を切って) ズキズキトイテ
ひりひり ○ (擦り傷も火傷も) ピリピリトイテ
(同上) ズキズキトイテ
ずきんずきん ○ (できもの) ズキンズキントイテ

III 頭部の感覚

3-1. 頭

- がんがん ○ (風邪をひいて頭の奥が) ズキンズキン
(同上) ズキズキッテイテ (痛い)
くらくら ○ (眩暈がして) グラグラ
ずきずき ○ (二日酔いで) ズキンズキン

3-2. 顔面

- かっか ○ (恥かしくて) ポ一ポ一トホテッタ

3-3. 目

- ちかちか ○ (テレビを見過ぎて) チカチカ
しょぼしょぼ ○ (裁縫で細かいものを見て) マガショ一ポ一ボ一ボシテキタ
<煙が煙たい時にはショ一ボ一ポ一ボ一は使わない>
ごろごろ ○ (目にごみが入って) ズキズキッテイテ (痛い)
(同上) ゴロゴロスル

3-4. 耳

- きーん ○ (耳元で大きな音がして) キ一ントナッタ
じくじく ○ (耳に炎症を起こして) ズヤズヤッテヤッターヨーダ (嫌だなあ)

3-5. 鼻

- むずむず ○ (くしゃみが出そうで) ムズムズスル
ぐじゅぐじゅ ○ (鼻水がたまって鼻が詰まり) ハナガグスグススル
つーん ○ (わさびをつけすぎて鼻が) ギュー一ントシテイテ

3-6. 口

3-6-1. 口全体

ねちゃねちゃ ○ (納豆を食べて口が) ヌラヌラスル

3-6-2. 歯

がちがち ○ (寒くて歯が) ガツガツトナル (鳴る)

ずきずき ○ (虫歯が) ギューントイテ (痛い)

3-6-3. 舌

ひりひり ○ (辛いものを食べて舌が) ピリピリスル

3-7. 喉

からから ○ (喉が) カラカラニカウエータ (乾いた)

ぜえぜえ ○ (息苦しくて喉が) ゼーゼースル

IV 胴体の感覚

4-1. 肩

こりこり

○ (肩の凝った部分が) ゴリゴリシテタ

<ゴリゴリはリンパ腺が腫れた時にもゴリゴリッテタ (ごりごりしてた) のように使う>

4-2. 胸

どきどき

○ (怖いめにあって) ドキドキスル

きゅっと

○ (胸が) ギョットシメツケラレルヨータ (しめつけられるようだ)

むかむか

○ (吐きそうで) ムカムカスル

4-3. 腹

4-3-1. 空腹

ぐうぐう

○ (空腹で) オナカダラダラッテタ (おなかがぐうぐういった)

4-3-2. 満腹

たふたふ

○ (お茶を飲み過ぎて) フカブカシタ

4-3-3. 腹痛

しくしく

○ シクシクイタム

4-4. 胃

<NR>

4-5. 尻

むずむず

○ (居心地が悪くて) シリガムズムズスル

V 手足の感覚

5-1. 手

ふるふる ○ (寒くて手が) ブルブルフルエク

5-2. 足

がくがく ○ (寒くて膝が) ガクガクスル

5-3. その他

ぬるぬる ○ (こんにゃくを触ると) ブユブユスル
(同上) ヌラツトスル

ぬらぬら ○ (里芋を触ると) ヌラヌラツテキモチガワリ (気持ちが悪い)
< (里芋を触ると手が) ヌラヌク >

VI 関節(骨)の感覚

ばきばき ○ (指の関節を) ゴキゴキトナラシタ (鳴らした)

VII その他(感覚ではないが記しておく)

屁

ふう ○ (おならが) フーットナック (鳴った)

鼻をかむ

ちん ○ テッパナツントカム (手鼻をちんとかむ)

咳

ごほん ○ ゴホンゴホン

くしゃみ

はくしょん ○ ハクセンガデタ <くしゃみのことをハクセンという>

笑い声

げらげら ○ ゲラゲラトワラッター (大声で笑った)

くすくす ○ クスクスワラウ (小声で笑う)

泣き声

えーん ○ エーンエーンテネーダ (子供が泣く)

ワンワン (やや大きな子供の泣き声)

めそめそ ○ メソメソシテル (陰で泣く時)

おぎゃー ○ オギャーオギャー (赤ん坊の泣き声)

隠れた行動

こそこそ ○ ヨソヨソスル

騒ぐ音

どたばた ○ ドタバタスルナ (どたばたするな)

遠慮ない行動

ずかずか

○ヒトノイエサベロペロデヘーッテクンナ (人の家にずかずか
あがりこむな) <「ずかずか」とは言わない>

ずけずけ

○ズケズケイウ (遠慮なくものを言う)

注) オノマトベにあたる部分は下線を引いた。上線はアクセント。音声は共通語に対応させた。ただし、語中の濁音化などオノマトベにおいては音韻対応に必ずしも従わないものがあるようだ。今回の報告では、調査が不十分で、その点には触れられなかった。

(おおにしたくいちろう 国立国語研究所)